

## 2023年12月度（第407回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2023年12月15日（金）14:00～16:00

開催場所：Zoom

参加人数：20名

内容：sciteのご紹介（株式会社サンメディア）

記入者：株式会社サンメディア 前田亜寿香

### 1. sciteのご紹介

発表者：株式会社サンメディア 松下茂

#### (1) scite 概要紹介

sciteとは、AIを活用したscite独自の引用文献情報「スマートサイテーション」を通じ、文献の被引用数だけでなく、その文献が肯定的に評価されているのか、あるいは単に紹介されているだけなのか、それとも否定的に言及されているのかといった引用内容を分析できるサービスです。分析には引用箇所の文脈がスニペット表示されるので、その文献の内容も把握できる。サービスの目的や、データソースの概要について説明。

#### (2) 各機能紹介

##### ・評価スコア

「Supporting（肯定的な引用）」 「Contrasting（否定的な引用）」

「Mentioning（どちらにも分類されない言及）」 「Unclassified（判別不可の引用）」のカテゴリ一別にスコアが表示される。

##### ・「scite analysis」

検索結果に対して、年代ごとの論文発行数や、著者別の論文数、最も支持されている機関ランキングなどの分析結果を確認することが可能。

##### ・他データベースとの連携

ブラウザにsciteのプラグインを入れることで、スマートサイテーションのスコアをPubMedやGoogle Scholar、出版社サイトといった他のリソースで表示させることができる。

##### ・研究機関、ジャーナル、研究者等のリサーチ

機関機関やジャーナル、研究者に対する評価を確認することができる。共同研究機関や研究者のサーチや、論文投稿先のジャーナル選定などに利用可能。

・「assistant by scite」

ChatGPT の学術版のようなサービスで、回答の元となるデータは scite に収録された文献情報から回答を出す。回答の根拠となった文献情報へのリンクがあり、根拠を確認することができる。設定で回答を作成するデータや年代、リソースを限定することができる。

### (3) 質疑応答

Q1: 検索対象は、論文のタイトル等の書誌事項、もしくは本文など、どこを対象に検索しているのか？

A1: 本文のあるものは本文を対象に検索します。文章で入力してもセマンティック検索が可能。関連すると思われる文献を表示してくれる。

Q2: 引用している内容（研究データなど）が何か、が分かるのか？

A2: 引用箇所の文脈の前後を分析しているので、引用している内容（研究データなのか）といったことが分かるものではない。

Q3: 収録内容の、国別の割合や、言語はどうか？

A3: 英語文献のみを収録。

Q4: 日本の研究開発力の指標の1つとして、Citation Index が使われるが、scite が同様の指標の1つとして使われることはあるか？

A4: どちらかという研究者向けサービスのため、目的が異なるかもしれない。指標の1つとして使うためには、対象雑誌や収録範囲を明確に提示する必要があると思うが、本来の scite の目的としては、研究者が膨大な文献情報を読む時間を減らすことが目的のため、そういう志向性はない。ただし、機関別や、特定のキーワードでの著者ランキングなどは確認することはできる。

Q5: 収録対象は、DOI、ORCID を持っているもののみか？

A5: DOI を持っていない書誌は採択されていないはず。

欧米は ORCID が必須だと思うのでそこで紐づいた情報で、名前が変わっても、名寄せされていると思うが、ここは確認の上、別途フィードバックする。

Q6: 無料のアカウントでも scite を検索することはできる？

A6: 検索自体は可能で、スマートサーテーションのスコアを見ることも可能。  
ただし無料の範囲では、文中の引用箇所の記事を見ることはできない。  
有料アカウントについては、1 週間のフリートライアルが可能。

## 2. 連絡事項

(1) グループ分けの紹介

(2) OUG400 回開催の紹介記事の紹介

(3) 2024 年 1 月 19 日開催 INFOSTA 新春セミナーの紹介

## 3. 次回以降の予定

2024 年 1 月 18 日(木) 14:00～16:00

【内容】 検索演題：2023 年度検索検定試験問題を解く

以上